



サステナビリティ／SDGsに対する取り組み

これからも、まちとサカエるために
ビルと地域と、ともにサステナブルな社会を築いていく

中日ビルは半世紀に渡り、地域の皆さんとともに歩んでまいりました。
次の半世紀、さらにはその先の未来も、多くの人たちが集い、
憩い、働き、楽しんでいただける場所であり続けたい。
そのためにも中日ビルは様々な取り組みを通じて、
SDGs(持続可能な開発目標)における12の目標達成に貢献してまいります。



5つの主要テーマ



1 環境配慮

CO2排出低減に向けた省エネ機器、部材の導入

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



本建物は先進的な省エネルギー技術の導入により、標準仕様建物に比べ一次エネルギー消費量を約26%低減、CO2排出量を約26%低減します。

■環境配慮概念図

- ガラス面積の最適化による熱負荷の最小化
- Low-eペアガラス



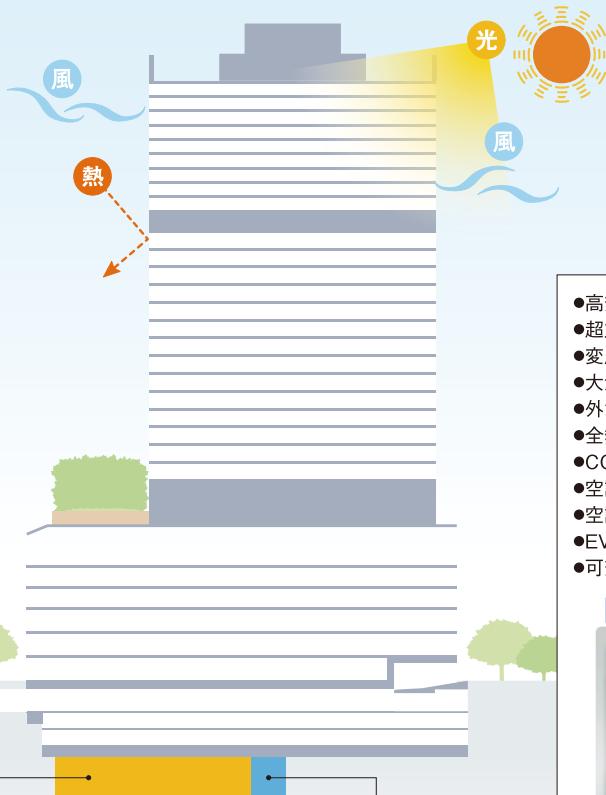
- エアバリアによるペリメーター空調

- 都市の緑化景観と建物の熱負荷低減
 - 屋上緑化
 - パーティカルフォレスト（壁面緑化）
 - 街路樹



- 地域冷暖房(DHC)を利用した中央熱源方式

近隣エリアの冷暖房・給湯等に利用する冷水・蒸気を中日ビル地下にあるプラントで集中的に製造し、供給するシステムです。これにより省エネ効果をはじめ、地球温暖化防止・環境保全等、効率的に理想的な街づくりを支えています。



- 自然換気、自然採光の利用

- 高効率LED照明
- 昼光センサーによる調光制御
- 人感センサーによる点滅制御（オフィス専有部やトイレ等）



- 高効率変圧器
- 超節水、節電型衛生器具
- 変風量、変流量システム
- 大温度差送風システム
- 外気冷房
- 全熱交換器
- CO2制御による外気量制御
- 空調機の直動仕様、高効率モーター
- 空調ダンパー制御による外気負荷制御
- EV回生エネルギー
- 可変速エスカレーター



効率変圧器

高効率変圧器の採用によって無負荷損と負荷損を低減し、電力ロスを低減します。

外気冷房

中間期等に室内温度より冷涼で新鮮な外気を室内へ供給することで空調エネルギーを低減します。

空調ダンパー制御による外気負荷制御

立ち上がり時に、外気ダンパーを閉じることで効率的に予冷・予熱を行います。

高効率LED照明

高効率LED照明を採用することで明るさを確保しながら消費電力を低減します。

エアバリア

窓際の熱処理を適正に行い(ガラスとブラインドの間の冷気や暖気を取り除き)、日射の室内への影響を最小限にすることによって省エネを促進するとともに快適性を確保します。

変風量、変流量システム

ポンプ・ファンの効率的な運転により、消費電力を抑えます。

全熱交換器

排気される空気と供給される新鮮空気との間で温度と湿度の熱を交換し再利用することで空調エネルギーを低減します。

EV回生エネルギー

エレベーター運転時に発生する回生電力を利用し、省エネルギーに貢献します。

人感センサーによる点滅制御

専用部内のオフィスワーカーの在・不在、移動といった状態を検知し、照明をきめ細かく制御して省エネルギー化を図ります。

トイレ・給湯室の照明制御でも採用し、未使用時の無駄な照明点灯をなくし消費電力を削減します。

大温度差送風システム

大温度差とすることで、送風量を低減し、ファンの消費電力を抑えます。

CO2制御による外気量制御

執務室において、外出等によりワーカーが閑散となる状態において、室内のCO₂濃度により1,000ppm以下の範囲で外気の導入量を抑えることで空調エネルギーを抑えます。

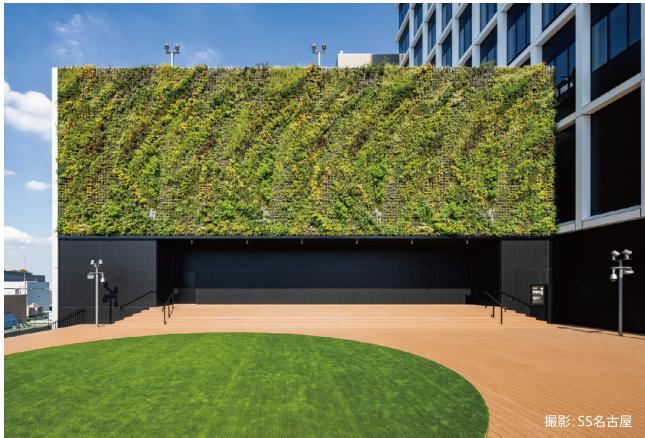
可変速エスカレーター

利用者を検知して、運転・停止・低速待機を自動制御することで省エネを図ります。

Low-eペアガラス

窓はすべて、特殊な金属膜でコーティングされた低放射(Low Emissivity)に対応したガラスを用いて遮熱性能を強化しています。

屋上緑化・バーティカルフォレスト



樹木対応型壁面緑化(バーティカルフォレスト)により都市の良好な緑化景観の創造と熱負荷低減を同時に達成しています。他の壁面緑化とは異なり、中部9県にまつわる植物をはじめとした多種多様な花木が大きく育ち(花や紅葉等により)豊かな四季を感じることができます。建物全体(屋根を含めて)で名古屋市の基準を上回る、敷地面積の約20%を緑化しています。

全館CO2フリー電力の導入



中部電力ミライズが提供するCO₂フリー電気「ミライズGreenでんき」を導入しました。全館でまかなく電力をCO₂フリーとしてすることで、CO₂排出量削減とともに、再生可能エネルギーの普及拡大に貢献します。CO₂削減量:年間約7,000トン(想定)



環境性能評価、認証の取得



【CASBEE Sランクを取得】

建物等の環境性能を様々な視点から総合的に評価する名古屋市建築物環境配慮制度(CASBEE名古屋)において最高ランクとなる「Sランク」を取得。

【DBJ Green Building認証を取得】

「環境や社会への配慮がなされた不動産」を評価するGreen Building認証(認証種別:プラン※2024年5月に本認証取得予定)において、国内トップクラスの卓越した「環境・社会への配慮」がなされた建物として最高ランクとなる「☆☆☆☆☆」を取得。



DBJ Green Building
2021 Plan

節水機器の導入(トイレ)



大便器及び小便器は超節水型の器具を採用することにより、水使用量の低減を図ります。防汚タイプの便器を採用して、清掃メンテナンスを容易にすることでさらなる水使用の低減に貢献します。

BEMSによるエネルギー運用監視



エネルギー使用状況の「見える化」をすることで、省エネ意識を醸成します。

EV車充電スタンドの設置



充電スタンドを設けることで、走行時に排出ガスのない環境にやさしい電気自動車の利用促進に貢献しています。

DHC



地域冷暖房システムとは、1か所または数か所の熱供給プラントで製造した冷水・温水・蒸気の熱媒を、複数の建物に配管を通して効率的かつ安定的に供給し、建物内の冷暖房や給湯等を行うシステムです。季節に応じた快適な空間を創出しながら、エネルギー効率の高い熱媒を安定的に供給するとともに、都市環境の保全や防災等、安全面でも大きく貢献しています。個別熱源方式に比べて「省エネ」「省CO₂」「省スペース化」を実現できると言われています。

井水の給水利用



地下水を有効利用することで、省資源に貢献します。断水時においても発電機電源により地下水のくみ上げが可能なため、トイレの継続利用が可能です。

ゴミの発生抑制



商業店舗に対して、ごみ処理を従量課金による有料化することで、施設全体のごみの発生抑制と分別の推進を図っています。

自然エネルギーの活用



【調光センサー／自然採光による照明消費電力の低減】
昼光利用制御センサーを設置し、自然採光が確保できる時間帯には室内照明を調光(減光)することで照明エネルギーの無駄を無くし、消費電力の低減を図ります。

旧建物躯体の一部を山留として再利用



既存躯体を残置させることで旧建物の解体で生じる廃棄物を最小化しています。

省エネの啓発活動



クールビズ、ウォームビズ、節水の協力を掲示します。

2 安心安全・街との響きあい

災害、異常気象による建物被害への対応・BCP対応①



地震のエネルギーを吸収し被害を最小化する「制震ダンパー」による制震構造を採用しています。

また被災度判定システムViSSQ(ビスキュー)を導入することで大地震発生時、建物の揺れを測って見える化し、より被害の実態に近い指標を用いて、「建物の継続使用」「事業継続」「帰宅困難者の受け入れ」といった判断に役立て、ビル利用者の安心安全を守ります。

■耐震構造

建物の構造計画と各フロアの平面計画に応じて、さまざまな制振デバイスを随所に配置。

最新のハイグレード制振システムの採用により、建物の揺れを低減し安全性を高めます。



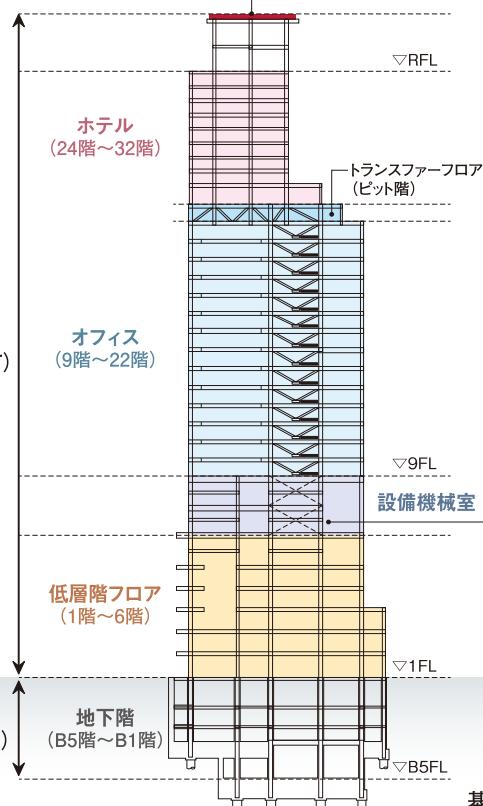
粘弾性体制振壁

鋼板に挟まれた特殊粘弾性体が揺れのエネルギーを吸収。地震や風揺れの大小によらず高い性能を發揮し、安心・安全な居住性を維持します。



オイルダンパー

揺れのエネルギーを吸収するオイルダンパーが、大小の揺れをむらなく制御します。



ヘリポートダンパー (TMD)

揺れに同調する「重り」を用いて建物の揺れを軽減するTMD(Tuned Mass Damper)として、屋上ヘリポートを利用。地震時の揺れを低減とともに、台風など強風時の不快な揺れも抑制します。



高耐力FMS合金ダンパー (プレース型、芯材十字型)

一般的なダンパー鋼材の約10倍の疲労耐久性を有する『FMS合金ダンパー』を採用。長周期・長時間地震動や余震など、繰り返し長時間の地震に対しても安定した性能を維持します。

基礎:パイルド・ラフト基礎

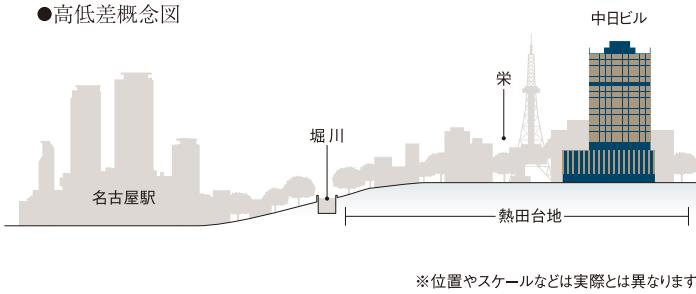
災害、異常気象による建物被害への対応・BCP対応②

当ビルはもともと水害被害の少ないエリアに立地していますが、さらなるリスク回避のため、重要な電気設備を建物上層階に配置することで想定外の浸水に備えています。

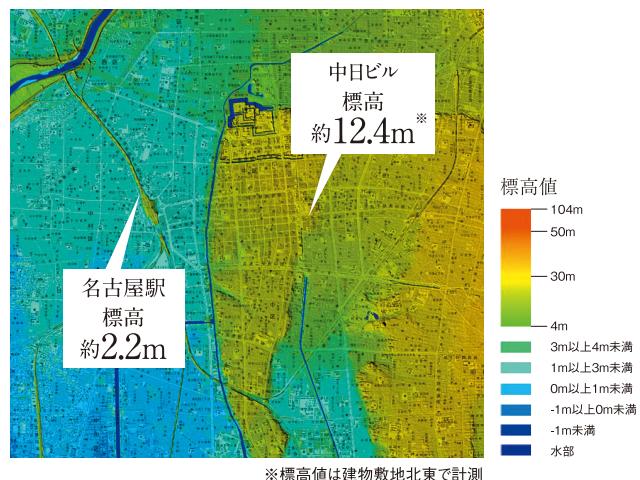
■水害リスクの低い立地

本建物は過去の集中豪雨における被害が少ないエリアに立地しています。名古屋市発表のハザードマップによると、大雨による浸水リスク、河川の氾濫による洪水リスクとともに、低いエリアと評価されています。

●高低差概念図



●熱田台地標高概念図

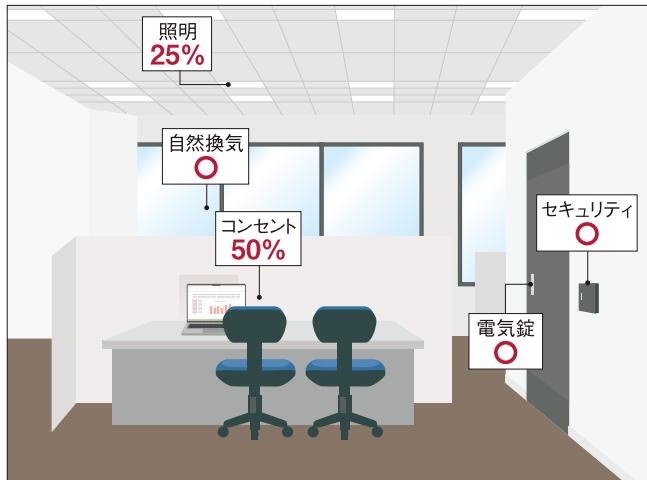


信頼性の高い特高3回線スポットネットワーク受電方式を採用。停電した場合も非常用発電機により共用部及びオフィス専用部に72時間の電気供給が可能です。

また被災時においても水を確保するための備えもあります。(給水ポンプ保安電源、耐震受水槽 他)

■停電時における電源供給イメージ

●テナント貸室内に72時間(30VA/m²)の電力供給



専有部

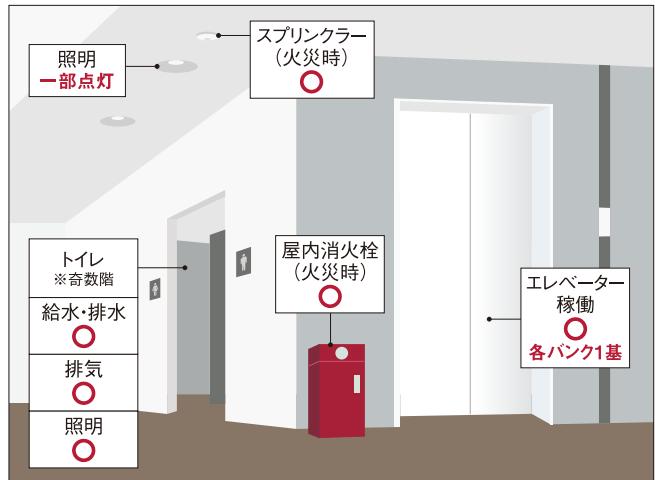
ビル側の非常用発電機より、共用部だけではなく専有部貸室内も照明は通常時の25%が点灯。電源は通常時の50%にあたる30VA/m²を供給しますので、災害対策室の設置を想定したレイアウトを作ることも可能です。

非常時の供給例(1フロア約2,300m²の場合)

- ノートPC 207台(18VA/m²)
- 複合機 15台(10VA/m²)
- テレビ 15台(2VA/m²)

※想定消費電力は、ノートPC:200VA/台、複合機1,500VA/台、テレビ:300VA/台で算出

●ビル共用部に72時間の電力供給



共用部

- エレベーターは低層・高層各パンク1基ずつ稼動
- オフィス奇数階フロアの男女WC、車椅子用WCが利用可能
- 72時間の給水確保
- B1Fイベントスペース、6F会議室・多目的ホールを帰宅困難者対応スペースとして提供

防犯対策



館内各所にある監視カメラ、侵入防止センサー、入退室管理設備、ELV・フロアセキュリティなどでビル利用者や入居者、近隣住民に対して安心感を創出します。

バリアフリー対応



「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」第17条第1項の規定に基づき名古屋市の「バリアフリー法認定」を取得しています。

- ・各用途ごと及びオフィスフロア全階にバリアフリートイレを設置
- ・身障者対応エレベーター
- ・B1階地下街接続口↔1階北東エントランスをバリアフリー対応の地下鉄出入口として提供

まちなみ・景観性



- 上位計画である名古屋市景観形成基準に則り、
- ・周辺の景観に調和するよう低層部の軒高を周囲の建物の高さに合わせる。
 - ・低層部屋上のDHC機械ヤードは目隠しを設置
 - ・車路を南側に集約し広小路通り、久屋大通り側の車路を設置しないなど、景観に配慮した計画としました。

雨水流出抑制



近年の豪雨時にに対応し、地下の雨水貯留槽に一旦屋根に降った雨水を貯めて敷地外への放流を最少化することで名古屋市の下水本管への負荷を低減します。

地域の歴史性の継承



- ・低層部の外装は旧ビルの意匠を継承したデザインを採用し、半世紀の間、栄のランドマークとして愛していただいた歴史を受け継ぐ。
- ・旧ビルに設置されていたアート(天井モザイク画)を保存し、6階に移設・展示。
- ・旧ビル由来の資材を保管し、1階受付、7階テラスレストランなど館内内装の一部に役立てている。

帰宅困難者の一時退避施設、備蓄倉庫



名古屋市と協定を結び、B1階アトリウム、6階ホール・会議室を帰宅困難者の退避場所として設定しています。また約1000m²の備蓄倉庫に名古屋市が提供するための防災備蓄品を保管しています。

災害救援対応ベンダー



カップ式を除くすべての自販機で災害救援対応のものを導入しています。

3 多様性の実現

だれでもトイレ



オフィスELVホールと商業エリアを直結させ、商業エリアにある「だれでもトイレ」に行きやすくすることで性的マイノリティ(LGBTX)に配慮します。

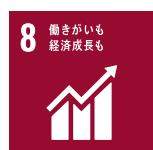


用途ごとに喫煙室を設置(分煙)



オフィス、商業施設、ホールそれぞれの用途ごとに適切に喫煙室を設け、受動喫煙を防止しています。

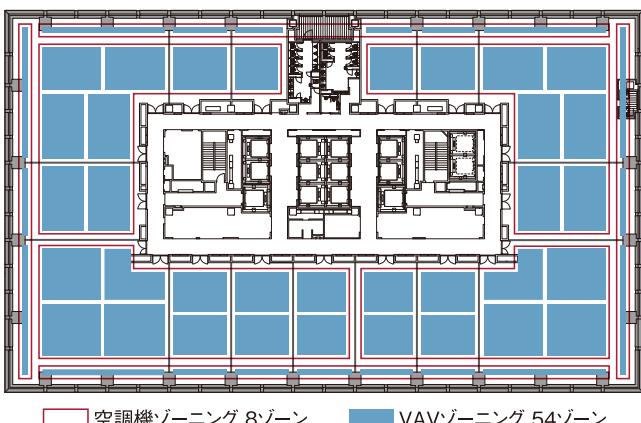
オフィス階バリアフリートイレにおむつ交換台を設置



オフィスフロア各階にあるバリアフリートイレ内におむつ交換台を用意し、多様な働き方にも対応できるよう備えています。

4 快適さ・働きやすさの提供

きめ細やかな空調ゾーニング



オフィスフロアはそれぞれが快適な環境で働くよう、きめ細やかな風量制御ができる仕様となっています。

屋上広場

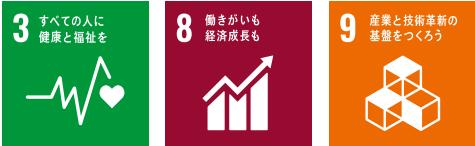
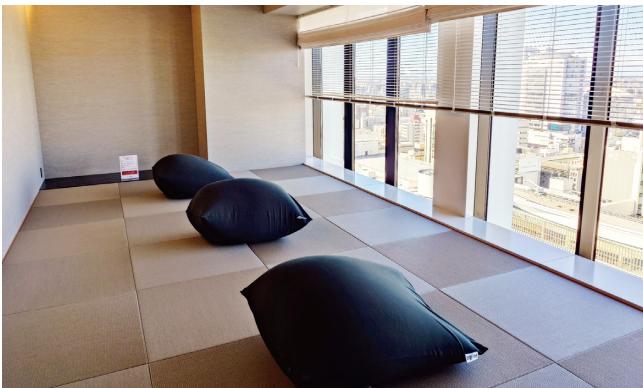


撮影:SS名古屋



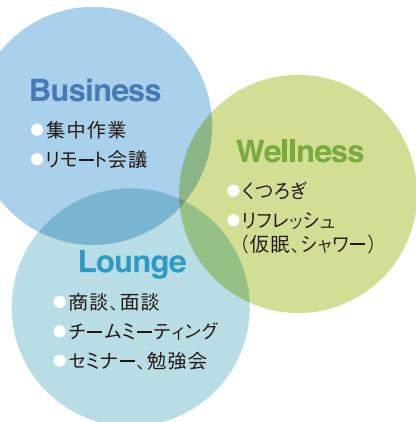
榮らしい景色を間近で感じられる憩いの空間です。都会でありながら開放感を味わえるこの場所は気分転換や小休憩にピッタリです。

オフィスラウンジ



集中ブースやソロワークができるカウンター席、気分を変えて打合せができるソファー席など「ビジネス」「ラウンジ」「ウェルネス」の3要素を備えて、ワーカーの働き方の多様性を広げる共用のオフィスラウンジを設けました。また昨今の健康志向に応えるため名古屋にあるオフィスビルの共用スペースでは希少な「ウェルネス」機能を充実させました。

- ・靴を脱いでくつろげる畳の部屋、シャワーブース、仮眠室:リフレッシュしてその後の生産性を高める
- ・シャワーブース:ウォーキング・自転車通勤をしてもらいやすくする=ワーカーの健康増進をサポート

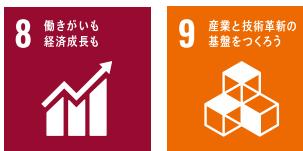


リフレッシュルーム



ワーカーが時間に限らず気兼ねなく食事や休憩をとれるスペースを設けています。

商業従業員休憩室



商業店舗従業員用の共用休憩室を設けることで従業員満足度の向上、入居テナントの人材採用支援に寄与します。

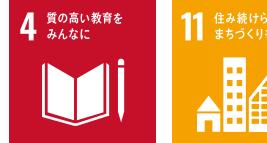
5 交流・発信

近隣小学校との連携(植樹機会を提供)



建物南側敷地の緑地帯の一部を近隣小学校の生徒たちに植樹していただきました。都市部に住む子供たちに木を植える体験を通して、都市緑化や環境保全に関する学びの機会を提供しました。

市内美術大学と産学連携事業を実施



5階全国物産観光センター(全国センター)の開業販促キャンペーンのプロダクトデザインを名古屋造形大学情報表現領域の学生に依頼しました。地方の過疎化が止まらない中、学生に対し、地域活性や魅力発見など興味関心を持ち、積極的に考えてもらう機会を提供するとともに、全国センターの課題であった若年層の取り込みに学生ならではのアイデアで協力をいただきました。

地域木材を使用した家具の設置



5階全国センター広場に設置したテーブルと椅子は、入居15道県や地元愛知県をはじめとした中部地方で採れた木材を使用したものを採用し、フロアのコンセプトを体現しながら、関わりのある地域の資源活用に貢献しています。

椅子は様々な質感・形状があり、気に入ったものがあれば来館者にも購入いただけるように情報発信もしています。

多目的ホール・会議室

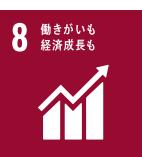


6階多目的ホール・会議室を、自社直営施設として整備。セミナー・講演会やライブ、落語などエンターテインメント性のある催事を実施していき、地域に賑わいをもたらします。また名古屋市が求める都市型MICE機能補完にも貢献します。

館内アート



撮影:SS名古屋



東海エリア出身または所縁のあるアーティストを採用しました。